

第十 世渡りの道

つてゐるが、家事の取り方の参考になる節があるから、他山の石として抄録して見よう。併し成るべく人真似の暮し方を避けて、自分の家の境遇に應じて餘裕ある生活を営むことが大切である。さて其の記事の要點を落さぬやうに縮述すると、

主人は某新聞社に勤めて月給二十八圓頂いて居ます。一昨年（大正四年）の二月 結婚、昨年の二月に女の子が生れて三人暮しの生活ですから二十八圓ありますれば不足なく暮して行けます。しかし「僕の家に来たとて決して安心してくれない。姑もない新所帯だから暢氣に暮せないことはないが、僕の今の身で埋れたくつもりで辛抱して貰ひたい。」と結婚の當夜に主人から聞かせられた言葉が身に滲みてゐます。

それで二三月過ぎると私は輸出編物の内職を始めました。一ダースの編賃が五十錢、糸代を差引くと三十五錢の利益ですから、子供が生れてからも矢張り續けてゐますが。今では月に十六七ダース、平均二圓ほどの賃錢を取つてゐます。今一ヶ月の收支を明細にしますと、

□ 収入 金三十圓也

内 譯

金二十八圓

夫の月給

金二圓

妻の工賃

□ 支出 金三十圓也

内 譯

第十 世渡りの道

第十世渡りの道

金四圓	米代
金三圓	家賃
金一圓五十錢	魚肉代
金一圓二十錢	野菜代
金六十五錢	調味品代
金六十五錢	薪炭代
金四十五錢	電燈代
金二圓三十五錢	雜費
金一圓七十錢	臨時費
金一圓二十錢	通信費

金三圓	新聞雜誌代
金十圓	貯金
金三十錢	子供の貯金

といふ豫算で、其中魚肉代・野菜代・雜費・通信費・新聞雜誌代合計九圓二十五錢は之を近所の銀行の小口當座貯金へ入れて置き、一日の費用を三十錢と極め、十日分だけづつ引出して来るやうにして居ます。金を澤山手許に置くとつい費ひ込みますから、三圓以上は決して置かぬことにし、一日三十錢の割合で以上の諸入費を全部現金拂ひして居ますので、どうして儉約しようかと毎日心掛けることが來來、その残額は自然と銀行の小口當座に残つて行きます。

野菜と魚は毎日市場まで買ひに行きますので、魚屋や八百屋から買ふよりも新

第十世渡りの道

第十 世渡りの道

鮮であつて且一割位安うございます。

米は能登の親戚から俵で送つて貰ひます。先日着荷した分によりますと、四斗入一俵六圓四錢（一石十五圓十錢）で、運賃が二十五錢、搗賃が十錢ですから合計六圓三十九錢で白米が三斗七升買った事になります。之を市内の米屋から買ひますと、時價一升十九錢五厘、三斗七升では七圓二十一錢五厘ですから、八十二錢五厘だけ利益です。

炭はたゞ今の相場が一俵一圓の高價ですけれども、私は夏の安い時に一俵四十五錢で一年分として十八俵だけ買込んで置きましたから市價が幾ら暴騰しても豫算が狂ひません。御飯は日に僅か七合ですから炭で炊いてゐますが、夏は一ヶ月一俵、冬は二俵で間に合ひます。一ヶ月平均一俵半と見て十分です。

米の買ひ

炭の買ひ

主人は酒は飲みませんが、煙草ははぎを毎月四十匁一袋づつ吸ひます。雜費二圓三十錢は少いやうに思はれますが、交際は狭いし、間食は絶対に致しませんし物見にも行きませんから間に合ひます。

新聞・雜誌代と通信費は非常に多額のやうですが、少しでも多くの書物を読みたいと思ひますので、いつも豫算が超過して困ります。通信費は二人の力を試すための投書の切手代でございます。一昨年の十一月から婦女界を始め色々の新聞雜誌の懸賞募集に投書していただいた賞金を私の名で貯金してゐますが、唯今では二十四圓三十錢になつてゐます。

被服費には主人が毎半期末に三十圓づつほど頂く賞與を充用してゐますが、衣類はすべて格安の中古着を買つて着てゐます。

第十 世渡りの道

第十 世渡りの道

臨時費は幸に 誰一人病氣に罹らず、不時の入用も起りませんので、毎月豫算の一圓七十錢を別口の貯金として置きます。

子供の貯金は一日一錢と極め、それを私の名義で結婚當日から記念の爲といつても貯金の心掛を忘れぬやうにとの意味で始めたので、今では七圓ほどになつて居ます。

——(金澤壽美子)——

此の精神を
學べ

物價騰貴の今日であるから、之を以て一般にあてはめる譯には行かないが、なか／＼堅實な暮らし方である。此の割合でゆけば滿五年後即ち六年目に貯金高が千圓になることは前に掲げておいた貯金表に照合して直ちに算出することが出来る。但し通信費と新聞雜誌代に毎月四圓二十錢支拂ふことは頗る無謀である。投書して懸賞金を儲けようといふことは考としては大いにいよけれども、其の爲に毎月買集める各種の

何事も打算
的なれ

新聞雜誌代と、投書用の切手代とが年に五十圓四十錢で、一ケ年餘りに得た所の賞金が僅かに二十四圓三十錢であるから差引二十六圓十錢づゝの損失、月に二圓十七錢五厘づゝの損耗と見ていよ。故に親戚・知人間の通信費は雜費の中から遺繰り、雜誌は夫妻各一冊づゝとし、新聞も一種で澤山、それに條養のために新刊書籍月一冊づゝ買ふことにすれば一圓二十錢位で間に合ふから、以前よりは、42圓—12圓—2圓 即ち三圓づゝ餘計に貯金が出来ることになる。新聞雜誌に投書して年に二十四圓三十錢の賞金を得たといへば月に二圓二錢五厘づゝ儲けたやうに聞えるけれども、其の實却つて月に二圓十七錢五厘づゝ損してゐるのであるから、單に懸賞金を得る目的の爲に買集める新聞雜誌代や切手代に一大節約を加へて月々三圓づゝ餘計に貯蓄する方が如何に安全であり得策であるかはいふ迄も無いことである。

第十 世渡りの道

第十一 金利の話

苟くも金を溜めようと目論む位の人には常は金利の多少利廻り等のことに就いて明確な常識を有たなければならぬ。利に利に生ませて元金を殖して行くのが貯金の面味であるから、銀行や郵便局に預金したり、貸付けたり、投資したりする場合には先づよく其の金利の多少如何といふ事を考へなければならぬ。それを考へず浮ツかり金を廻して居ては逆も思ふやうに金が溜らず、又殖えもしない。で、こゝには日歩と年利の關係を表示して、日歩を年利にすれば幾何になり、年利を日歩にすれば幾何になるかといふことを明かにして置く。而して之を實地に活用するのは全く諸君の手腕にあるのだ。

(一) 日歩年利換算表

日	年	利	日	年	利
一厘	三厘七毛	四厘五毛	一厘	一分六厘四毛	
一厘五毛	五厘五毛	五厘	一厘五毛	一分八厘三毛	
二厘	七厘三毛	五厘五毛	二厘	二分一毛	
二厘五毛	九厘一毛	六厘	二厘五毛	二分一厘九毛	
三厘	一分一厘	六厘五毛	三厘	二分三厘七毛	
三厘五毛	一分二厘八毛	七厘	三厘五毛	二分五厘六毛	
四厘	一分四厘六毛	七厘五毛	四厘	二分七厘四毛	

八厘	二分九厘二毛	一錢三厘	八厘	四分七厘五毛
八厘五毛	三分一厘	一錢三厘五毛	八厘五毛	四分九厘三毛
九厘	三分二厘九毛	一錢四厘	九厘	五分一厘一毛
九厘五毛	三分四厘七毛	一錢四厘五毛	九厘五毛	五分二厘九毛
一錢	三分六厘五毛	一錢五厘	一錢	五分四厘八毛
一錢五毛	三分八厘三毛	一錢五厘五毛	一錢五毛	五分六厘六毛
一錢一厘	四分二毛	一錢六厘	一錢一厘	五分八厘四毛
一錢一厘五毛	四分二厘	一錢六厘五毛	一錢一厘五毛	六分二毛
一錢二厘	四分三厘八毛	一錢七厘	一錢二厘	六分二厘一毛
一錢二厘五毛	四分五厘六毛	一錢七厘五毛	一錢二厘五毛	六分三厘九毛

第十一 金利の話

一錢八厘	六分五厘七毛	二錢三厘	八分四厘
一錢八厘五毛	六分七厘五毛	二錢三厘五毛	八分五厘八毛
一錢九厘	六分九厘四毛	二錢四厘	八分七厘六毛
一錢九厘五毛	七分一厘二毛	二錢四厘五毛	八分九厘四毛
二錢	七分三厘	二錢五厘	九分一厘三毛
二錢五毛	七分四厘八毛	二錢五厘五毛	九分三厘一毛
二錢一厘	七分六厘七毛	二錢六厘	九分四厘九毛
二錢一厘五毛	七分八厘五毛	二錢六厘五毛	九分六厘七毛
二錢二厘	八分三毛	二錢七厘	九分八厘六毛
二錢二厘五毛	八分二厘一毛	二錢七厘五毛	一割四毛

第十一 金利の話

二錢八厘	一割二厘一毛	三錢三厘	一割二分五毛
二錢八厘五毛	一割四厘	三錢三厘五毛	一割二分二厘三毛
二錢九厘	一割五厘九毛	三錢四厘	一割二分四厘一毛
二錢九厘五毛	一割七厘七毛	三錢四厘五毛	一割二分五厘九毛
三錢	一割九分五毛	三錢五厘	一割二分七厘八毛
三錢五毛	一割一分一厘三毛	三錢五厘五毛	一割二分九厘六毛
三錢一厘	一割一分三厘二毛	三錢六厘	一割三分一厘四毛
三錢一厘一毛	一割一分五厘	三錢六厘五毛	一割三分三厘二毛
三錢二厘	一割一分六厘八毛	三錢七厘	一割三分五厘一毛
三錢二厘五毛	一割一分八厘六毛	三錢七厘五毛	一割三分六厘九毛

第十二 金利の話

三錢八厘	一割三分八厘七毛	四錢三厘	一割五分七厘
三錢八厘五毛	一割四分五毛	四錢三厘五毛	一割五分八厘八毛
三錢九厘	一割四分二厘四毛	四錢四厘	一割六分六毛
三錢九厘五毛	一割四分四厘二毛	四錢四厘五毛	一割六分二厘四毛
四錢	一割四分六厘	四錢五厘	一割六分四厘二毛
四錢五毛	一割四分七厘八毛	四錢五厘五毛	一割六分六厘一毛
四錢一厘	一割四分九厘七毛	四錢六厘	一割六分七厘九毛
四錢一厘五毛	一割五分一厘五毛	四錢六厘五毛	一割六分九厘七毛
四錢二厘	一割五分三厘三毛	四錢七厘	一割七分一厘六毛
四錢二厘五毛	一割五分五厘一毛	四錢七厘五毛	一割七分三厘四毛

第十一 金利の話

(二) 年利日歩換算表

四錢八厘	一割七分五厘二毛	七錢	二割五分五厘五毛
四錢八厘五毛	一割七分七厘	七錢五厘	二割七分三厘七毛
四錢九厘	一割七分八厘九毛	八錢	二割九分二厘
四錢九厘五毛	一割八分七毛	八錢五厘	三割一分二毛
五錢	一割八分二厘五毛	九錢	三割二分八厘五毛
五錢五厘	二割七毛	九錢五厘	三割四分六厘七毛
六錢	二割一分九厘	十錢	三割六分五厘
六錢五厘	二割三分七厘二毛		

第十一 金利の話

年	利	日	歩	年	利	日	歩
	一分		二厘七毛		五分五厘		一錢五厘一毛
	一分五厘		四厘一毛		六分		一錢六厘四毛
	二分		五厘五毛		六分五厘		一錢七厘八毛
	二分五厘		六厘八毛		七分		一錢九厘二毛
	三分		八厘二毛		七分五厘		二錢五毛
	三分五厘		九厘六毛		八分		二錢一厘九毛
	四分		一錢一厘		八分五厘		二錢三厘三毛
	四分五厘		一錢二厘三毛		九分		二錢四厘七毛
	五分		一錢三厘七毛		九分五厘		二錢六厘

第十一 金利の話

一割	二錢七厘四毛	一割五分	四錢一厘一毛
一割五厘	二錢八厘八毛	一割五分五厘	四錢二厘五毛
一割一分	三錢一毛	一割六分	四錢三厘八毛
一割一分五厘	三錢一厘五毛	一割六分五厘	四錢五厘二毛
一割二分	三錢二厘九毛	一割七分	四錢六厘六毛
一割二分五厘	三錢四厘二毛	一割七分五厘	四錢七厘九毛
一割三分	三錢五厘六毛	一割八分	四錢九厘三毛
一割三分五厘	三錢七厘	一割八分五厘	五錢七毛
一割四分	三錢八厘四毛	一割九分	五錢二厘一毛
一割四分五厘	三錢九厘七毛	一割九分五厘	五錢三厘五毛

第十一 金利の話

二割	四錢五厘四毛	二割三分	六錢三分
二割五厘	五錢六厘二毛	二割三分五厘	六錢四厘四毛
二割一分	五錢七厘五毛	二割四分	六錢五厘八毛
二割一分五厘	五錢八厘九毛	二割四分五厘	六錢七厘二毛
二割二分	六錢三毛	二割五分	六錢八厘五毛
二割二分五厘	六錢一厘七毛	二割五分五厘	六錢九厘九毛

第十二 利子早見表

金利の計算を便利ならしめる爲、曩に元金一に對する元利合計を求め方及び毎始期に一づつ貯へて行く元利合計の求め方を述べて置いたが、茲には元金百圓乃至千圓に對する年一割二分、一割五分の利子計算及び元金一圓乃至百圓に對する年二割の利子計算の一覽表を示して置く。

(一年一割二分の利息 百分の十二(二十五分))

元金	年利	月利	日利	息歩
1000円	120円	10円	0.333333	

第十二 利子早見表

第十二 利子早見表

元 金	利			息
	一 ヶ 年	一 ヶ 月	一 日	
一〇〇 <small>円</small>	一五、〇〇 <small>円</small>	一、二五〇 <small>円</small>	〇、〇四一六 <small>円</small>	

(二) 年一割五分の利息 百分の十五(二十分)

一〇〇〇〇	一二二〇〇	一〇〇	三、三三三三三
九八〇〇	一二一八八	九九	三、三〇〇〇
九〇〇〇	一〇八〇	九〇	三、〇〇〇〇
八〇〇〇	九六〇	八〇	二、六六六六

第十二 利子早見表

七〇〇〇	八四〇	七〇	二、三三三三三
六〇〇〇	七二〇	六〇	二、〇〇〇〇
五〇〇〇	六〇〇	五〇	一、六六六六
四〇〇〇	四八〇	四〇	一、三三三三三
三〇〇〇	三六〇	三〇	一、〇〇〇〇
二五〇〇	三〇〇	二五	〇、八三三三三
二〇〇〇	二四〇	二〇	〇、六六六六
一五〇〇	一八〇	一五	〇、五〇〇〇
一三〇〇	一五六	一三	〇、四三三三三
一一〇〇	一三二	一一	〇、三六六六

第十二 利子早見表

元 金	利		
	一 ヶ 年	一 ヶ 月	一 日
一〇〇〇	一五〇、〇〇	一二、五〇〇	〇、四一六六
九九〇	一四八、五〇	一二、三七五	〇、四一二五
九〇〇	一三五、〇〇	一一、一二五	〇、三七五〇
八〇〇	一二〇、〇〇	一〇、〇〇〇	〇、三三三三
七〇〇	一〇五、〇〇	八、七五〇	〇、二九一六

(三) 年割の利息

第十三 利子早見表

一五〇	一二二、五〇	一、八七五	〇、〇六二五
二〇〇	三〇、〇〇	二、五〇〇	〇、〇八三三
二五〇	三七、〇五	三、一二五	〇、一〇四一
三〇〇	四五、〇〇	三、七五〇	〇、一二五〇
三六〇	五四、〇〇	四、五〇〇	〇、一五〇〇
四〇〇	六〇、〇〇	五、〇〇〇	〇、一六六六
四七〇	七〇、五〇	五、八七五	〇、一九五八
五〇〇	七五、〇〇	六、二五〇	〇、二〇八二
五八〇	八七、〇〇	七、二五〇	〇、二四六六
六〇〇	九〇、〇〇	七、五〇〇	〇、二五〇〇

第十二 利子早見表

三	四	五	一〇	一五	二〇	二五	三〇	四〇	五〇
〇、六〇〇	〇、八〇〇	一、〇〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、六〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
〇、〇五六〇〇	〇、〇六六四〇	〇、〇八三三三	〇、一六六六〇	〇、二五〇〇〇	〇、三三三三三	〇、四一六六六	〇、五〇〇〇〇	〇、六六六六六	〇、八三三三三
〇、〇〇一六六	〇、〇〇二二一	〇、〇〇二七七	〇、〇〇五五五	〇、〇〇八三三	〇、〇一一一一	〇、〇一三八八	〇、〇一六六六	〇、〇二二二二	〇、〇二七七七

法定利子

六〇	七〇	八〇	九〇	一〇〇
一、二、〇〇〇	一、四、〇〇〇	一、六、〇〇〇	一、八、〇〇〇	二、〇、〇〇〇
一、〇〇〇〇	一、一六六四	一、三〇三三	一、五〇〇〇	一、六六六六
〇、〇三三三三	〇、〇三五三五	〇、〇四四四四	〇、〇五〇〇〇	〇、〇五五五四

(注意) 法定利子は元金百圓以下は一ヶ年に付百分の二十(即ち二割)以下、百圓以上千圓以下は百分の十五(即ち一割五分)以下、千圓以上は百分の十二(即ち一割二分)以下である。此の早見表は即ち法定利子を標準にして作製したものである。

此の外、金の活用方法として金の貸付方、土地家屋の投資、株式の賣買等の問題が取り扱われている。第十二 利子早見表

第十二 利子 早見表

残されてゐるが、之等に就いては別に一冊子に纏めて説くを便とするから、此には省く。要するに以上説く所をさへ確實に履行するならば、必ず千圓以上の金が溜まることは毫も疑を容るべき餘地がない。

第十三 家産五萬圓蓄積法

一家の生活を安固にするには家産を蓄積せねばならぬ。家産が無くて、單に日收又は月收だけで暮して行くのは少しく不安である。不幸にして其の收入が杜絶すると、たちまち生活の不安を感じるやうでは面白くない。一時收入が絶えても安全に生計を立てて行けるやうにするにはどうしても家産が必要である。家産より生ずる利子だけで安全に暮せるなら、それほど暢氣なことはあるまい。

そこで家産はどの位必要かといふに少くとも一萬圓は必要であるが、標準額を五萬圓とする。今假りに家産が一萬圓あつて、之が年利を六分とすれば利息が六百圓になるから、月收五十圓に相當する。随つて五萬圓なれば年收三千圓、月收二百五十圓にな

第十三 家産五萬圓蓄積法

第十三 家産五萬圓蓄積法

る。家産から生ずる収入月々二百五十圓あれば餘程贅澤に暮せる。子々孫々も安樂に暮して行ける。

さて五萬圓の家産を造るにはどうすればよいか。それには之まで力説した千圓貯金法、一萬圓貯金法を實行すればよいのであるが、参考のために日掛、又は年掛五萬圓貯金表を掲げて見よう。

(一) 日掛五萬圓貯金表

年利	日掛金	貯金セバ
四分八厘	毎日一厘ツツ	百八十七年目ニ 五〇、六〇九、九八一
	毎日一錢ツツ	百二十三年目ニ 五〇、八七五、三三一
	毎日二錢ツツ	百二十三年目ニ 五〇、二九四、三三三
	毎日三錢ツツ	百十五年目 五二、七六七、六七五
	毎日四錢ツツ	百九年目 五三、〇二三、三九四

日掛五萬圓貯金表

毎日一厘づ

自分一人の享樂は不可

五分	百八十年目	百三十三年目ニ	百十九年目ニ	百十一年目ニ	百五年目ニ
	五〇、六〇九、九八一	五〇、六九七、九八六	五二、二〇一、五九九	五二、八四一、九一〇	五二、五〇二、四八一

右の表に示すが如く、毎日一厘づ貯へて之を年四分八厘に利殖すれば百八十七年目に五萬六千九百九十八圓四十八錢一厘になり、毎日四錢づ貯へて年五分で利殖すれば百五十年目に五萬一千五百二圓四十八錢一厘になる。自分一人の享樂をのみ思はず、我が家を念頭に置いて子々孫々の事を思はば遠大な考で百年計畫を立てるがいよ。漏手で粟を攔むやうな考へ或は短兵急な考ではなかく、金が溜るものでない。

(二) 年掛五萬圓貯金表

第十三 家産五萬圓蓄積法

第十三 家産五萬圓蓄積法

年掛五萬圓貯金表

期限	利率	四分八厘	五分	六分	七分	八分	九分	一割
十年		三、八四三、九六六	三、七五五、三五八	三、五七八、七八〇	三、三八二、三三三	三、二七四、五〇〇	三、〇一九、二七五	二、八五二、〇六三
二十年		一、四七九、八八一	一、四〇〇、〇四〇	一、二八一、三二八	一、一三九、八七九	一、〇二一、五八〇	八九四、八二九	七九三、六一一
三十年		七四六、四三〇	七〇六、五八七	五九六、四三六	四九〇、三三〇	四〇八、七六〇	三三六、六四三	二七六、三三九
四十年		四一六、五六五	三九一、〇九三	三〇四、八二六	二二三、〇九一	一七八、七三〇	一三五、七八〇	一〇三、二七二
五十年		二四四、一九八	二三五、七七六	一六二、四八五	一二四、四八一	八〇、八七八	五六、二八五	三八、八九三
六十年		一四六、九九一	一三三、七一一	八八、四八九	五七、二二九	三七、三三三	二四、七五八	一四、九一六
七十年		八九、八四二	八〇、三三四	四八、七三九	二八、八三九	一七、二四〇	一〇、四〇〇	五、七三九
八十年		五五、四一一	四八、六九〇	二七、〇一〇	一四、五九七	七、九八四	四、三九五	二、二一一
九十年		三四、三六四	二九、六五七	一四、九七四	七、四〇四	三、七〇二	一、八五五	八、五三
百年		二一、三八三	一八、一一九	八、〇三四	三、七六〇	一、七二八	七、八五	三、三九
百十年		一三、三三四	一一、〇九一	四、八七三	一、九〇一	七、九二	三、三一	二、二六
百廿年		八、三三五	六、七九六	二、七一九	九、六三	三、七〇	一、三九	四、九

毎年百六十二圓四十八錢五厘づつ

毎年四錢九厘づつ

即ち年利五分なれば毎年百六十二圓四十八錢五厘づつと五十年間繼續貯金すれば其の貯金高が丁度五萬圓になるのである。若し年一割の利子で百二十年間に五萬圓溜めようとならば毎年僅か四錢九厘づつ貯へて行けばよいのである。其の他は表に就いて研究されんことを望む。

要するに家産は一家の體面を保つ上から見ても、子孫の爲から云ふても必要缺くべからざるものであるから、自分の収入と生活程度を考へて、餘り無理のない範圍で家産を蓄積するがいよ。年に四錢九厘づつ貯へて年一割に廻して行けば百二十年後に五萬圓の巨額に達するではないか。年に五圓や十圓の餘裕なら、どんな貧しい家でも都合がつく。況して四錢九厘をや。若しこんな零碎な金すら貯へることの出來ぬ人なら、いつまで経つても決して生活の安固が望れない。生活の安定を望み、子女の幸

第十三 家産五萬圓蓄積法

此の考があらなら

第十三 家産五萬圓蓄積法

福を祈り、我が家の隆盛を願ひ、國家の發展を念ふ人は必ず家産を作れ。何時までも水呑百姓や洋服細民ではゐるては男が立つまい。

定収入者の千圓以上溜めるまで (終)
金銭活用

大正八年五月一日印刷
大正八年五月五日發行

定價金八十錢

千圓以上溜めて
著作所有

著者 松浦松次郎
東京市京橋區南橋町十八番地
發行者 大倉廣三郎
東京市本所區番場町四番地
印刷者 岡 功

發行所

東京市京橋區南橋町十八番地

廣文堂書店

振替東京四六八四電話二四六三

此の良書を座右に置き

尾崎行雄先生序法學士水村五郎先生著 必ず一讀あれ

即席演說自由自在

新形美本
金八十錢
送料 金八錢

祝辭、式辭、答辭、學事、社交、兵事其他青年會、同窓會、懇親會、歡迎會、送別會、新年會、忘年會、招待挨拶等の實例を示し、更に如何にせば一人前の演說が出来るか、其方法を懇切に教へたもの、故に之を熟讀せば辯舌必ず流暢となり、又必ず満場の喝采を受けることが出来る

中村俊治先生著 萬戸必備萬人必讀の良書はこれ

日用理科學の常識

四六判美本
金一圓五十錢
送料 八錢

あなたの日常生活にどれだけ理科の知識が活用されてゐますかと問はなれたら何と答へるか。蓋し本書は理科の學理を實際生活の上に應用したもので、家事經濟、消費經濟、能率増進上最も有益必要なもので、學問は斯う應用せねば役に立たぬのである。必ず御一讀あれ

主婦の必讀良書

田中富士子先生著 圓滿な家庭の和樂隆盛には此の本が必要

主婦は是丈心得おけよ

四六判美本
金七十錢
送料 金八錢

一家の家憲を組織し、經濟を計り、秩序を保ち、又團樂の樂みを増し、育兒、衛生、料理、作法、金錢出入の括りを始めとし、召使の使ひ方、手心、裁縫、生花、茶湯等凡そ主婦として心得おくべき必要事項を全部詳説した良書である。速に之を一讀して家庭を圓滿隆盛にせよ

和洋料理大家服部茂一先生著 毎日美味な食事が出来ます

即席珍料理の拵へ方

四六判美本
金一圓二十錢
送料 金八錢

女子職業學校の割烹講師として有名なる著者の獨特の研究であつて、誰にでも即席に出来る珍料理が四季を通じて澤山説明してあるから、安價で滋養分に富めるおいしい珍らしい料理を拵へて一家團樂して食卓に着くには必ず本書を参考せねばならぬ。敢て一讀を望む

父兄諸君愛讀書

大學教授 小西重直先生著 小田原監長 黑田源太郎先生著 此の告白を聞け

犯罪少年の告白と個性調査

少年は四圍の境遇と指導方法の如何によりて善にも遷り易く又惡にも染り易き者なり。本書は不幸にして犯罪したる少年數百名に就て其の生立ち、遺傳、學業、操行、品性、氣質、嗜好、讀物、性欲等を研究せる良書なれば我が子の行先を案する父兄は必ず之を一讀せよ

高島平三郎先生著 天覽を賜ひたる本邦唯一の名著

兒童心理講話

兒童の一代を嬰兒期、幼兒期、幼年期、青年期等に分ちて其の心理の發達、變化、作用等を實驗的に學術的に面白く詳述せられたるものなれば父母は家庭教育上、教育家は國民教育上、經世家は社會教育上必ず味讀せらるべき好箇の良書也。敢へて諸君の御一讀を乞ふ

菊判 全一册

金二圓八十錢

送料 金十二錢

菊判 全一册

金二圓七十錢

送料 金十二錢

一讀千金の名著

酒卷鷗公先生著 明細なるシベリア大地圖添付

富源開拓 シベリアの實情

樺太大の金塊が到る所の沙中より産出するといふシベリアは亦林産、山獵、水産、農産等に富みて實に世界の一大金庫なりと稱せらる。本書其の各富源を實地に就きて詳細明瞭に調査せるものなれば、有爲青年は勿論、事業家、資本家の一讀せらるべき良書也必ず讀を待つ

世界徒歩旅行家鳥井三鶴先生著 口繪寫真三十二枚挿繪二百數十枚

世界徒歩 十萬哩無錢旅行

四年の星霜、柳風沐雨、世界の各地を徒歩旅行したる此の紀行はかの單なる探檢記とは全然其の趣を異し、先づ地理、風俗、民情、富源を調査して我が經濟的發展に資し、古趾史績を採りては文化の由來を尋ぬる等是實に近來稀觀の好著として大歡迎中、敢へて必讀を乞ふ

新形 美本

金九十錢

送料 金八錢

四六判 美本

金一圓九十錢

送料 金十二錢

よせ展發に的民國

■滿川龜太郎先生著◆世界の樂天地南米へ行け◆

徒手一攫萬金 南米渡航移住案内

新形美本
金九十錢
送料金八錢

南米は世界の大寶庫にして邦人の移住開拓に最も適するのみならず又盛に歡迎せらる。本書は南米各地の富源を調査して移住の方法を詳述したる最も信用すべきものにして且南米大地圖添へたる良書也。敢へて發展的國民の必讀を乞ふ

■長崎武先生著◆詳細なる支那大地圖を添へたる良書◆

邦人の開拓すべき 支那の大富源

新形美本
金九十錢
送料金八錢

亞細亞をして亞細亞人の亞細亞たらしむるには先づ支那の大富源を開拓して有無相通ぜざればからず。本書此の見地に立ちて支那の富源を説くこと最も詳細にして、在來の有り觸れたるものとは類を異にする良書として好評實に噴々たり敢へて萬人の愛讀必讀を熱望す

終

